

2025年度後期 開講学科別集計結果表

常葉大学

開講学科	健康柔道整復学科	履修者数	569
------	----------	------	-----

回答者数	296
------	-----

学年 マーク	回答者数／構成比 (%)				
	1年	2年	3年	4年	無効回答
	86 29.1	75 25.3	99 33.4	36 12.2	0 0.0

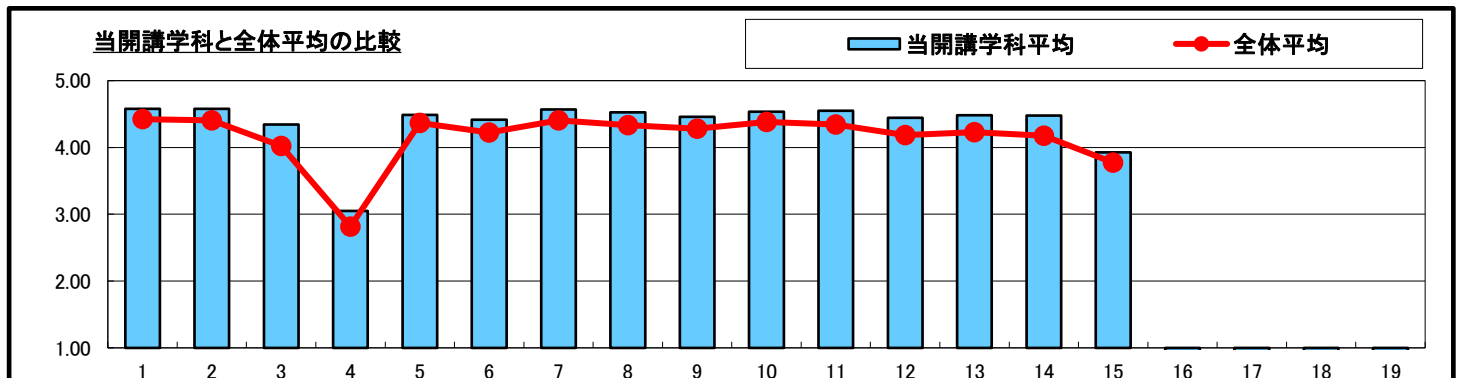
No.	設問文	平均	回答者数／構成比 (%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
			とても そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない		

▼全学部共通の質問項目									
1	学修環境（プロジェクタ・音響・空調・照明・静粛性）は良好であった	4.58	202 68.2	68 23.0	23 7.8	1 0.3	2 0.7	296	0
2	クラスサイズ（受講者数）やグループサイズは適切であった	4.58	202 68.2	71 24.0	17 5.7	4 1.4	2 0.7	296	0
3	周りの学生の熱意が感じられた（熱心に授業に参加していた）	4.34	172 58.1	73 24.7	35 11.8	12 4.1	4 1.4	296	0

▼学部レベルの質問項目									
4	この授業に対する授業時間外学修にどの程度の時間を費やしましたか（1回の授業の前後）	3.05	2時間以上 51 17.2	1時間以上 2時間未満 53 17.9	30分以上 1時間未満 80 27.0	30分未満 83 28.0	全くして いない 29 9.8	296	0
5	シラバスに則した内容の授業が行われていた	4.49	184 62.6	74 25.2	33 11.2	1 0.3	2 0.7	294	2
6	この科目の難易度は適切であった	4.42	172 58.1	84 28.4	33 11.1	5 1.7	2 0.7	296	0
7	この科目は学部・学科の学びを深める上で有益であった	4.57	199 67.5	69 23.4	24 8.1	2 0.7	1 0.3	295	1
8	この科目は自らのキャリア形成や将来を考える上で役立った	4.53	198 67.1	64 21.7	25 8.5	6 2.0	2 0.7	295	1
9	【対面授業の場合】 この科目は対面で受講することが適切であった 【ポータルサイト等を活用した授業（オンライン授業）の場合】 この科目はオンラインで受講することが適切であった	4.46	191 64.7	62 21.0	31 10.5	8 2.7	3 1.0	295	1

▼教員個人レベルの質問項目									
10	教員の話し方は明瞭で聴き取りやすかった	4.53	202 68.2	58 19.6	29 9.8	6 2.0	1 0.3	296	0
11	板書、スライド、配布資料などは適切であった	4.55	202 68.2	62 20.9	26 8.8	5 1.7	1 0.3	296	0
12	学生に質問や意見を求める、発表の機会を設けるなど授業への参加を促していた	4.44	179 60.5	80 27.0	28 9.5	7 2.4	2 0.7	296	0
13	学生の反応や理解を確認しながら授業を展開していた	4.48	185 62.7	75 25.4	29 9.8	4 1.4	2 0.7	295	1
14	必要に応じて学生の受講態度への注意を適切に行っていた	4.48	186 62.8	75 25.3	28 9.5	4 1.4	3 1.0	296	0
15	この授業のシラバスを読みましたか	3.93	十分に 読んだ 129 43.7	よく読んだ 71 24.1	どちらとも いえない 46 15.6	ほとんど 読まなかった 42 14.2	全く読んで いない 7 2.4	295	1

▼学科設問									
16		-	0	0	0	0	0	0	296
17		-	0	0	0	0	0	0	296
18		-	0	0	0	0	0	0	296
19		-	0	0	0	0	0	0	296



2025 年度後期授業アンケート 学科別集計結果表に対する講評

学科／課程	健康柔道整復学科
講評者	健康柔道整復学科長 大橋 淳

設問	講評
設問 1～3 「全学部共通の質問項目」について	学修環境とクラスサイズはいずれも高評価であり、授業の実施条件は概ね良好でした。一方で、周囲の学生の熱意は相対的に低く、授業内での関与や参加行動が表れにくい可能性があります。問いかけや小課題、短時間の共有など、参加を促す仕掛けを継続することで、改善につながると考えられます。
設問 4～9 「学部レベルの質問項目」について	シラバスに沿った授業内容、難易度、有益性、将来への有用性、受講形態の適切さはいずれも概ね高評価であり、授業内容の妥当性は支持されている。一方で、授業時間外学修は他の設問より評価が低く、学修時間の確保が主な改善点と考えられる。事前課題や復習について具体的に指示し、評価に結びつく到達目標を明示することで、授業外学修を促すことが望まれる。
設問 10～15 「教員個人レベルの質問項目」について	説明の分かりやすさと教材の適切さは高評価であり、授業運営の基盤は良好でした。参加機会の確保と理解確認も概ね適切でしたが、小テストや振り返りを通じて到達度を可視化することで、理解の定着と評価の安定化がより期待できます。一方、シラバスの確認は相対的に低かったため、初回授業で要点を扱う、参照箇所を具体的に指定するなど、「読む必然性」を生む工夫が必要です。
設問 16～ 「学科設問」について（該当学科のみ）	特になし